

## 42 文化相対主義——異なる文化をもつ人々のあいだで相互理解は可能だろうか

### ◆文化相対主義の前提

文化が違っているというのはどういうことだろうか。あるいは何がどう違っていることが、文化が違っているということなのだろうか。これまで多くの人類学者にとって、文化が違うということは、現実を捉える概念体系が異なっており、また現実に対する価値判断の基準も違っているということの意味していた。これが文化相対主義の主張として知られているものである。文化が違うということは、かなり根本的なレベルで違っていることだということになる。私はこれをむしろ絶対的他者性の想定と呼んでもいいくらいだと思う。この想定は字義通りにとると、人類学にとっての悪夢である。ある人々が生活している世界を理解するのに、われわれが自らの身の回りの世界を理解する仕方がまったく通用しないとすれば、そもそも理解など可能だろうか。現実の捉えかたも基準もまったく異なっている相手と、そもそも対話など成り立つだろうか。つまりそれは人類学を不可能にしてしまう想定なのである。

もちろん人類学者は文化的な他者を理解することは可能であると考えている。それならそうした理解を可能にするはずの、人類に普遍的な概念や価値判断の基準の存在を前提とするところから出発の方が理にかなっているというものだろう。もちろんそうした方向で考える人類学者もいる。しかし多くの人類学者は普遍を前提とすることに対しては懐疑的であり、その意味で「文化相対主義」的なのである。異なる社会の人々の理解を目指す人類学が、その出発点として、原理的に理解不能な他者を想定していることの意味は何であろうか。

異なる社会の人々と付き合っていると、当然多くの違いに目がいくし、対話を試みてもさまざまな齟齬を経験する。問題はこうした表面的な差異の背後に「文化」の違いを疑ってみることの意味である。いうまでもなくこうした差異それ自体は、還元不可能な「文化の違い」の証拠にはならない。絶対的な他者性は、単なる想定である。そしてこの想定こそが、これ

らの差異を一方の概念体系内での差異に還元してしまうことを（自分たち自身の概念体系や基準を相手に押し付けることを）思い止まらせるのである。それは同時に、分析者側の概念体系や価値基準の相対化を促す。これこそが人類学が他者理解に至る道筋なのである。他者理解は、出来合いの普遍をあれこれと調達することによってではなく、自らの概念枠組みのこうした相対化と組替えによってアド・ホックに構築された共通の理解の地平（そこに立つと両者のあいだの差異が等距離に眺められるような仮設の足場）によって到達される。その実践が「民族誌」（相手の社会をその社会に暮らす人々自身の捉えかたと基準から見て首尾一貫したものとして記述し理解しようとする試み）であった。文化相対主義が、「民族誌」の営みをとおして、西欧社会の自文化中心主義に対する有効な批判であり続けることができたのも、この自己相対化のゆえにであった。

### ◆文化相対主義の危険

しかし裏を返せば、文化相対主義とそこに含まれる「文化」の観念には、これとは正反対の効果を導く危険な要素も含まれている。すでに触れたとおり、文化相対主義の主張は、文字どおりにとると、理解と対話の不可能性を帰結してしまう主張である。それは他者に対する理解の断念を正当化する主張にもなりうるのである。現象としてみられる差異や齟齬を「文化」という、より本源的ななにかのせいにしてしまうことは、いっそう深刻な結果を伴う。差異や齟齬を、その由来するところを正確に捉えることなく、単に「文化が違うせいだ」という形で納得してしまうことは、差異を乗り越えようとする努力そのものの停止や対話の断念を、「文化が違うんだから仕方がない」という形で正当化してしまうかもしれない。これは他者の「異性」をそれ自身の内部に固定して押し込めてしまう「文化的アパルトヘイト」以外のなものでもない。文化相対主義は人類学にとって両刃の剣である。それは他者の排除と孤立を正当化するスタンスにも、他者との真の共通の理解の地平を開くための方法的な戦略にも、ともになりえるのである。

⇒ 2, 41, 100 参照文献 120, 179, 307

(浜本)

## 編者紹介

山下晋司 (やました しんじ)

1948年山口県に生まれる。73年東京大学教養学部卒業。  
78年東京都立大学大学院社会科学研究所博士課程修了。  
文学博士。現在、東京大学大学院総合文化研究科教授。  
主著に、『儀礼の政治学』、『死の人類学』(共著)、『観光人類学』(編著)、『移動の民族誌』(編著)などがある。

船曳建夫 (ふなびき たけお)

1948年東京都に生まれる。72年東京大学教養学部卒業。  
77年東京大学大学院社会学研究所博士課程修了, 82年  
ケンブリッジ大学大学院修了。Ph. D. 現在、東京大学  
大学院総合文化研究科教授。主著に、『国民文化が生れる時』(編著)、『知の技法』(編著)、『新たな人間の発見』(編著)などがある。



文化人類学キーワード

有斐閣双書

1997年9月30日 初版第1刷発行

2000年6月30日 初版第6刷発行

編者 山下晋司  
船曳建夫  
発行者 江草忠敬

発行所 東京都千代田区神田神保町 2-17  
有斐閣  
電話(03)3264-1315(編集)  
3265-6811(営業)  
郵便番号 101-0051  
<http://www.yuhikaku.co.jp/>

印刷 図書印刷株式会社・製本 稲村製本所  
© 1997, 山下晋司・船曳建夫. Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取替えいたします。  
★定価はカバーに表示してあります。

ISBN 4-641-05863-6

本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。